

## COWも一ん、花嫁さん！

(カモーン、ハナヨメサン！)

北海道名寄産業高等学校 酪農科学科 3年 森川 亮太

「なんで酪農やめちゃったの!？」昨年、母から信じられない話を聞きました。私が幼い頃から兄のように慕い、町内でも有数の大規模経営を行っていた大好きな酪農家。その尊敬する酪農家が離農したというのです。原因は、私が想像もしていなかったこと。経営者として知識も技術もありました。しかし廃業するしかなかったというのです。

私の住む中頓別町は、北海道宗谷地方南部に位置し、雄大な山々に囲まれた牧草地が広がる人口約2,000人の酪農の町です。我が家も酪農業を営み、父と母、祖母と兄と姉の6人家族で、父は堅実で細かな経営を行なう指導農業士で、兄が酪農業を営む予定です。現在は搾乳牛120頭を飼育する大規模な酪農家です。

小さい頃から、キラキラとやさしい目をした牛が大好きで、いつも両親の後をついてまわり、兄や姉の搾乳や餌やりを見よう見まねで手伝っていました。そして、いつの日か「牛を育てることを一生の仕事にしたい」と夢を持つようになり、現在は家畜人工授精師を目指し、文部科学省指定農業経営者育成高等学校である北海道名寄産業高校で頑張っています。ここでは、大好きな酪農を寮生活を通して、いつでも学ぶ事ができ、毎日が楽しく充実しています。

しかしそんな時、「尊敬する酪農家の離農」という信じられない出来事が起こりました。しつこく聞く私に、母は渋々、これまでの経緯を教えてくださいました。

その酪農家は後継者として育ち、高校卒業後大学に進学して、最新の酪農技術を身に付けて就農。父と母の3人での経営は順調で、将来を有望視される優良酪農家でした。

しかし、突然お父さんが病気で亡くなり、肩を落とす間もなく、全ての仕事を、お母さんと2人でやることになりました。普段の管理に加え、牧草の刈り取り時期には、お母さん一人で仕事をこなし、過労も重なり、作業中に怪我をしてお母さんが入院。たった一人では全ての仕事に手がまわらず、牛の病気が一気に増え乳房炎が多発。廃用する牛が急増し、乳質も悪化。乳量が激減し、あっという間に離農を余儀なくされたそうです。不運が重なった以上に、父や母、酪農家が口を揃えて言っていた一番の原因は「お嫁さんがいないこと」。お嫁さんがいれば、お母さんの負担も軽減され、なにより気持ちの面で支え合い頑張れたかもしれません。

後継者不足は学校でも学んでいましたが、「お嫁さん」についてはまったく考えていませんでした。実際、私が中頓別町の役場で聞いてみると、中頓別町の酪農家37軒のうち、37%にあたる10軒の酪農家がお嫁さんがいないことがわかりました。思っていた以上に、お嫁さんの問題は深刻なのです。

衝撃を受けた私は、「酪農家の婚活」について興味をもち、地元で調べるようになりました。農協や青年部、農家の息子やお見合いを企画した人など、「変わったことを調べる高校生だね」と不思議がられましたが、多くの方が教えてくれました。中頓別青年部会長の十倉さんの活動は、3日間のお見合いを企画し、鍾乳洞や山などを町の名所をまわり、農家の仕事の体験や会食を通して、お互い気の合った人を見つけます。しかし結果は散々。「農家に憧れて来る女性はたくさんいるけど、酪農体験をやっても続かない。」特に多い課題は、「農家は話が苦手なこと」「親との同居が条件」など酪農家の婚活は課題だらけだとわかりました。私も恥ずかしながら女の子にふられることがありますが、少しずつ経験を重ね、以前より良い関係を築けるようになっていくと実感しています。酪農家は仕事の特性や地域の特性、古い考え方が一般的で、多くの課題があると感じました。

そこで私は、夢である家畜人工授精師という仕事を通して、将来は「酪農家の婚活」を手助けする役割をしていきたいと考えています。具体的には、全ての農家を頻繁に回る授精師だからこそ、それぞれの「農家の良い所」を知っています。関係機関と連携し、「幸せな酪農の花嫁さん」というサークルを立ち上げます。農業に憧れを持つ女性との仲介を多くの市町村と連携し、2人をつなげていきます。

また、お嫁さんの考えている生活と、両親の考えている理想をマッチングできるように相談にのります。場合によっては、これまでの古い考え方を変えてもらうよう新しい農業の在り方を提案し、「通り農家」などの講演会や視察を行ないます。

私は、大好きな酪農業に携わる一人として、「牛」だけでなく、「人」も幸せにしたい。授精師という仕事を通して、「人と人との縁結び」をしたいのです。

そのためには、今の私ではまだまだ未熟です。昨年、名寄全域を担当する授精師である名寄AIセンターの堀合さんの元で授精師の仕事を体験させていただきました。汚れることが多い仕事ですが、牛を真剣な眼差しで、大切に扱い、酪農家さんと笑顔で生き生きと話す堀合さんはとてもかっこよく、私の目標となりました。授精師という仕事は、私の一生の仕事として、やりがいのある仕事だと感じました。

そして昨年、さらに「牛と心を通じ合える授精師」になるため、仲間と共に学校に新たに「ホルスタインクラブ」を立ち上げました。放課後や早朝など、牛を専門にするプロを目指し、必要な知識と技術を身に付けるため頑張っています。特に共進会への出場を目指した活動は、はじめは暴れて手が付けられなかった牛も、毎日のブラッシングや牛を引いていくうちに、少しずつ心が通じ合い、思うように動かすことができるようになりました。

そして今年の4月、北海道鷹栖町で行なわれた共進会で、未經産ジュニアの部で1位を受賞しました。賞をいただいた以上に、近隣の優良な酪農家とつながりを持つことができ、「酪農頑張れよ。いつも応援しているよ」と励ましの言葉を多くの方からいただいたことが

---

嬉しかったです。

そして、現在は「酪農の新しい楽しみ方」をテーマに、学校で一番力を入れているのが「農村カフェ」です。私たちが大切に育てたジャージーやホルスタインから搾った牛乳で試行錯誤し濃厚なアイスを製造。自慢のアイスを、放牧地の横にオープンカフェを設置し、黒の前掛けにブラウンのスカーフ、ハンチング帽をかぶり、お客様に提供します。農業の6次産業化、グリーンツーリズムといった「新しい農業の楽しみ方」を体験しています。将来に向けて、さらに酪農や農業の魅力を発見していきます。

「酪農は大変」と多くの方は言います。しかし、それ以上に「牛が好き、山が好き、自然が好き」な人はたくさんいると思います。酪農家に自信を。そして花嫁さんには夢を。

私は「牛も、人も幸せにしたい。」婚活を手助けする「縁結びの授精師」は、私にしかできない仕事。COWもーん、花嫁さん。酪農は最高だよ！

---